

【SEAJ 事務局】

SEMICON China 2026出張報告

セミコンショー会期：2026年3月25日(水)～27日(金)
会場：中国・上海新国際博覧中心 (SNIEC)

2025年のセミコンチャイナの気温は30℃を越すなど季節外れの暑さとなったが、今年は9℃～16℃と3月末の上海として平年並みの気温となった。昨年は咲き誇っていた桜だが、今年は開花まであと一歩といったところであった。

SEMICON China 2026のテーマは「跨界全球・心芯相联 (半導体を軸に、世界と産業をつなぐ)」



跨界全球・心芯相联



開会セレモニーの様子

Keynote には、【WU Hanming 氏 / 浙江大学 教授】、【Benjamin Loh 氏 / Comet Holdings AG 会長】、【Zheng Li 氏 / JCET Group CEO】、【Mario Morales 氏 / AMD VP】、【Weiliang Chen 氏 / MetaX 創業者会長】、【Ankur Gupta 氏 / Siemens EDA EVP】の6名が登壇した。

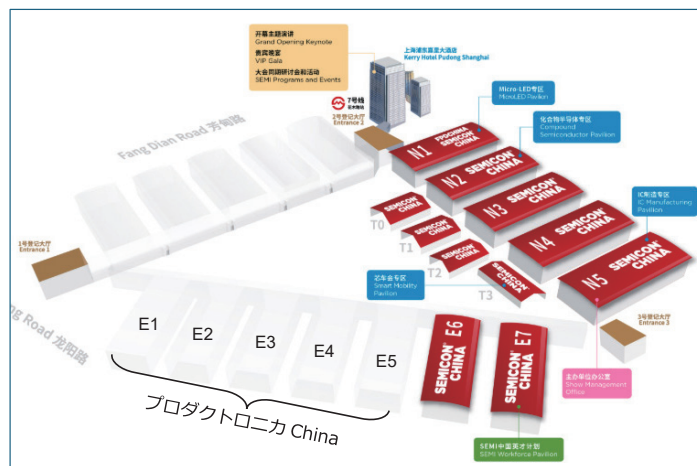
2030年の勝敗は、「最先端ノードを持つか？」よりも「AI・パッケージ・設計・電力を統合できるか？」の技術・サプライチェーン・インフラのトータルソリューションがキーとなるであろうことが語られた。

【Exhibition】

【SEMICON China Opening Keynote】

初日の午後オープニングセレモニーと Keynote が行われた。

展示会場は例年通り SNIEC で、下図のように11棟を使用し総計10.5万 m²という広大な展示面積を誇る。世界最大の



SNIEC 展示棟配置

セミコンショーだけあって、出展者リストで確認できただけでも1,433ブースあり、一通り見学するだけでも丸一日かかるほどの規模。それでもセミコンショーには使っていない建屋が10棟残っている。21棟全てをセミコンショーで使う日が来るかもしれない。

今年はE1～E5棟が「プロダクトロニカ China」という展示会で使用されており、セミコンショーからシームレスで見学することができた。棟を貫く一直線の通路をE7棟からE1棟を見通すとE1棟は霞んで見えるほどである。



広大な SNIEC 敷地

今年の入場者数は15万9,896人と世界最多ではあるものの、昨年より2万人ほど減っているとのこと。しかし、2万人程度減ったところで大混雑には変わりなく、これほど広大な展示エリアで通路幅も広いにもかかわらず、展示場内で人とぶつからずに歩くことは難しいほどの大盛況である。



入場時の混雑

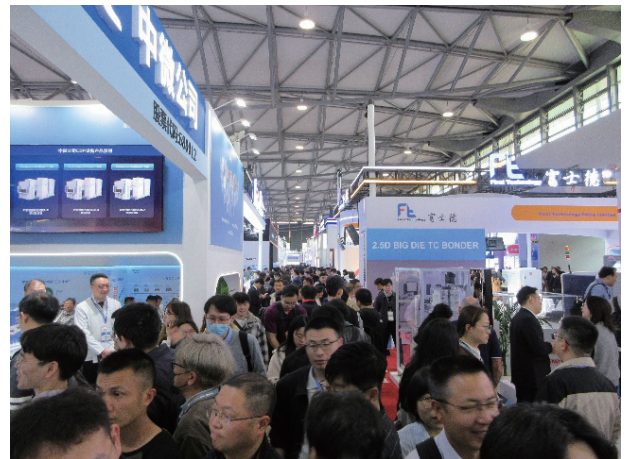
世界第2位の規模のセミコンジャパンと比較すると下表のようになる。規模ではChina、多様性ではJapanであるようだ。また、地域別出展社数を見ると半導体装置、材料分野はアジア勢が圧倒していることが改めて分かる。

【中国国産半導体製造装置】

他国のセミコンショーと比較して半導体製造装置を出品している会社が圧倒的に多い。昨年突如として現れ、多数の装置群を一気に発表して会場の注目を集めたSiCARRIER社(新凱来)が今年は一転、出展なしであったのは残念であったが、それでも相当数の装置メーカーの出展があった。

ざっと歩いただけでも下記の会社が実機やパネル展示を行っていた。実際にははるかに多くの会社が参入しているものと思われる。

展示されていた3Dモデルを見ると、ほとんどの装置がどこかの装置に似ているものの、外観は近代的で最新装置と遜色ない。実機展示の装置をみると外装の曲げ加工や、塗装の仕上げなどの加工も良くできているものが多かった。

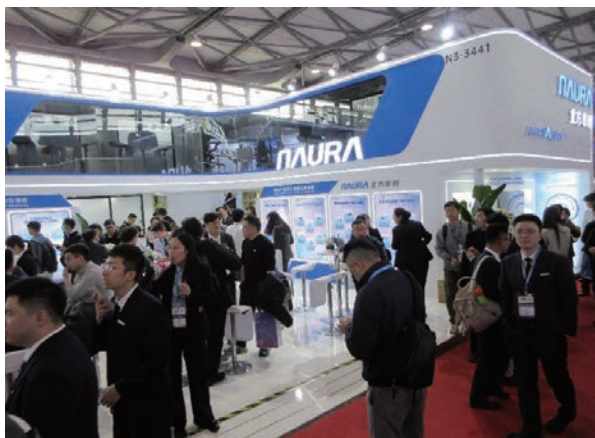


会場の混雑

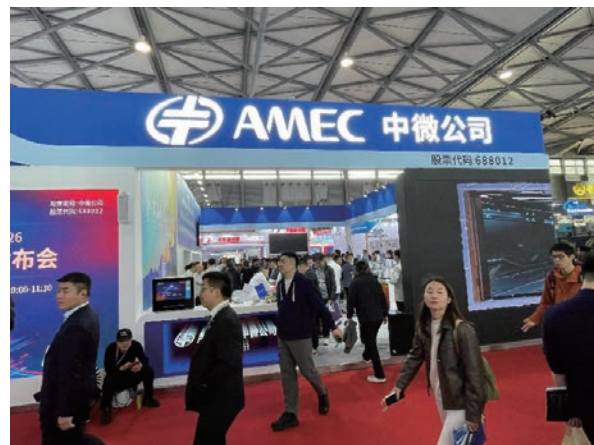
	SEMICON China 2026	SEMICON Japan 2025
展示面積	104,829m ²	64,970m ²
出展社	1,428社	1,284社
自国出展	中国社 83%	日本社 78%
参加国	18か国	34か国
地域別	アジア : 1,374	アジア : 1,144
	EU : 29	EU : 109
	US : 22	US : 30
	中東 : 3	中東 : 1
来場者	15万9,896人	12万1,267人

規模ではChina、多様性ではJapan

SEMICON China 2026出張報告



NAURA ブース



AMEC ブース

メーカー	取扱い装置
NAURA	前工程装置を多数品揃え
KINGSEMI	コーターデベロッパ、ウェット洗浄機、パッケージング
AMEC	エッチャー、GaN MOCVD、メタルCVD
SMEE	露光機
Piotech	プラズマCVD/ALD
ACM Research	ウェット洗浄機、メッキ、CVD/ALD、ポリリッシャ
CETC Electronics Equipment Gr.	イオンインプラント、CMP、エッチャー、バッチ炉、パッケージング
PowerTech	テスター、ハンドラー、ブローバ、パッケージング
AccoTEST	アナログIC・Mixシグナル・パワーICテスター
Shenzhen Longsight Technology	SiCarrier子会社 計測器
CC TECH	テスター、ハンドラー、ブローバ
HWATSING	CMP、グラインダー
MAXWELL	エッジトリマー、イオンインプラント、レーザー溝加工、ハンドラー
LEUVEN Instruments	イオンビーム装置、エッチャー、CVD
SIZONE TECHNOLOGY	CMP、スラリー供給装置

【さいごに】

2025年に続いて訪れたセミコンチャイナだが変わらない大活況を呈していた。ただし、会場で会った中国装置メーカーの知人と話したところ、既に国内メーカー同士での過当競争が始まっているとのこと。

昇竜のような勢いを見せている中国半導体産業は、現在前工程で約100社、OSATで約400社、半導体製造装置で約800社、パーツ・材料で約3,000社あると言われている。この一大新興産業が太陽電池、フラットパネル、電気自動車と同じように「公費投入による国策産業急速振興→乱立→過当競争→企業統合と淘汰」という動きになってゆくのか

どうか、影響力の大きい中国半導体産業だけにその動向に注目したい。

末筆ながらセミコンコリアでもそうだったが、セミコンチャイナでもブース案内の紙のブックレットが復活しており、大変助けになった。出展者が増加し、展示会場も拡大傾向にあるセミコンショーにおいては、一覧性のある紙のMapは効率的なブース回遊のためには有効な助けとなることを改めて感じた。

(SEAJ 国際部長 おおた つねかず 太田 恒和)